令和４年９月１日（木）　中学校全校集会　挨拶

学校祭が終わりました。皆さんが一人ひとりの役割を立派に果たしている様子を学校祭準備期間中から見ていて、とても頼もしく感じていました。ご苦労様でした。

さて、８月 19 日の登校日の中学校集会で、皆さんに話した内容を覚えていますか。
夏休み間に自分の目標があって「やり切った」「目標まで届かなかった」など、それぞれ一人ひとりの想いがありますが、客観的に「やり切った」とか「やり切れなかった」と判断することは難しい。だから、大切な点は「これで良い」とするラインを自分で引かず、真摯に学校生活に取り組んで、みんなの伸びしろを伸ばしていってほしい、という内容でした。

そして、学校祭では皆さんの取り組みの成果が発揮され、初日のフェニックスプラザ、二日目の文化祭、最終日の体育祭と皆さんの活躍に繋がったと感じています。高校生や先生方からも「素晴らしかった」「センスがいい」「将来が楽しみ」などの言葉をいただいて、コロナ禍や天候不順の制約や困難があっても何とか切り拓いていく皆さんの力を見ることが出来ました。とても嬉しかったです。
それを今後の学校生活でも発揮してくれたらと期待しています。

では、これから通常の学校生活に戻ることで「何か特別なことをしなければならないのか」と、少し不安に感じている人もいると思うので、２ 点話をしたいと思います。どちらも「何か特別なことをしなくてもいい。今のことを精一杯取り組む」という内容です。
一つは、この「高志中学校での活動に精一杯取り組む」ということです。皆さんは藤原正彦という数学者、作家を知っていますか。彼の著書『日本人の真価』という新書の中にこのような内容がありました。

- ノーベル賞自然科学３部門（物理、化学、医学生理学）の日本人受賞者は２５名。
- しかもそのほとんどは、一人前の研究者になるまで日本国内で研究した。こんな国はアジアでは日本だけである。
- これらの研究者の中に、東京生まれ、東京育ちは一人もいない。
- 研究者の生まれ育った地域環境の共通点は、美しい自然・芸術・文学などの美が存在していること。金銭や損得勘定を気にしない精神性が存在していること。

そして、福井出身のノーベル賞受賞者南部陽一郎博士も、この福井で暮らしたこと、福井の自然や風景が原体験として貴重だったと言及していらっしゃいました。
つまり、大都市圏でもなく、この福井で皆さんのやりたいこと突き詰めていってほしい。何か特別なことをする必要はなく、この高志中学校で精一杯、やるべきこと、興味を持っていることをしっかり取り組んでほしいと思います。

もう一つは、「今まで通りの新型コロナウィルス感染対策を進めていく」ことです。
今までもしっかり行ってくれてありがとう。そして、これからも継続をお願いします。高志学研修として１０月には１年生の宿泊研修、１１月には２年生の職場訪問、３年生の東京研修も予定されています。これらプログラムのためにもお願いします。

これからの皆さんの学校生活、次へのステップに向けた取り組みに期待します。